

留学先国名 : 中国（香港）

留学先学校名 : 香港中文大学

留学期間 : 平成 28 年 1 月 5 日 ~ 平成 28 年 12 月 22 日

帰国後の今、留学生生活を振り返ってみると、香港での 1 年間は本当にあつという間に終わってしまい、何か長い夢でも見ていたような感じがします。これまで関わったことのないような数多くの友人と交流し、遊び、ともに学んだ日々の思い出は、私の一生の宝物です。香港に交換留学して本当に良かった。

留学前、私は友達に、「香港に留学する」というと、多くの友人から「どうしてアメリカやイギリスじゃなくて香港なの？」と尋ねられました。「中国語が勉強したいの？」と聞かれることも多かったです。留学中には、「上海にいるの？」と勘違いされることもありました。実は私の大学では、香港に留学する学生は中国語を専攻している場合が多く、それ以外の学生で香港を留学先に選ぶ人はほとんどいませんでした。そんな環境の中で、香港を留学先に選んだ私はかなり珍しい学生だったと思います。

ところで、私が留学先として、とりわけ香港を選んだ理由は三つあります。一つ目は、ビジネスを学ぶ上で最高の環境にあること。例えば、私が留学していた香港中文大学のビジネススクールは、世界ランキングで 30 位前後に位置しています。さらに、私が注目したのは、日本での専攻に関わらず、自由に授業を履修できる点です。私は日本では法学部に所属していましたが、履修要件さえ満たしていれば、香港ではビジネス専攻の学生と同じ授業を自由に履修することができました。二つ目は、ほとんどの授業が英語で開講されており、世界中から数多くの留学生が集まる点です。実は、私は日本でも香港でも中国語の授業は一切履修していませんでした。しかし、基本的に香港では授業は英語で行われ、授業中は英語のみでコミュニケーションを行います。また、広東語や中国語を話さない韓国人やアメリカ人などの教授もあり、特に交換留学生については、欧米を中心に 1 年間でおよそ 1000 人弱の学生が香港に学びに来ます。こうした香港の国際性や多様性に気づいている日本人学生は、あまりいないのではないのでしょうか。三つ目の理由は、私が大学 1 年生のときに出会った香港人学生に影響を受けたからです。実際に香港で生活する中でも感じたのですが、香港の学生は非常に元気で活気があります。刺激的で活気のある香港の街でそういった学生とともに生活することは、自分にとっての大きな成長につながるのではないかと思います。

留学に行く前は正直なところ不安な気持ちの方が強かったと思います。初めての長期の海外滞在で、友人を 1 から作ることができるのか、寮生活になじむことができるのか、と不安ばかりでした。中部国際空港から香港国際空港に着いたとき、これから始まる留学生活に対する不安とともにわくわくした気持ちもありました。空港から大学までタクシーで向かうときにみた香港のきらめく夜景は今でも忘れていません。香港中文大学に着いたとき、いきなり最初の困難がありました。大学が香港郊外の山にあるのですが、あまりにも大学が大きすぎて自分の寮を見つけることができなかつたのです。1 時間ほど重いスーツケースを持ちながら大学を歩き回り、途方にくれました。そのとき、たまたま近くを通り過ぎた学生がいたので、声をかけてみ

ました。実は彼はすでに大学を卒業した卒業生でした。そんな彼に連れられて山を下り、私が住む予定の Chung Chi College まで何とかどり着き、無事に寮まで私を送り届けてくれたのです。その寮で出迎えてくれたのは、寮を管理する香港人のおばさんでした。緊張と春並みの暑さで汗をかいていた私に水をくれ、部屋まで案内してくれました。その部屋に恐る恐る入ったときのことは今でも鮮明に覚えています。緊張しながら部屋を開けると、1人の中国人学生がパソコンに向かっていました。彼は中国の貴州出身の4年生の学生でした。後に彼は日系のある有名企業に入社し東京で働くことになったため、現在でも友人として交流を続けています。今考えると奇跡のような巡り合わせだったと感じています。これが私の留学生活のスタートでした。

授業の面では、私はビジネス専攻の授業を主に履修していました。具体的には、財務会計学、管理会計学、企業財務、投資、マーケティング、経営学、意思決定モデリングなどの授業を受講しました。これらすべての授業は英語で行われており、韓国人やアメリカ人の教授もいました。授業のスタイルとしては、日本と異なる点がたくさんありました。例えば、ほぼすべての授業にグループワークがありました。さらに、そのグループメンバーは自分で探してチームを作る必要があったのです。そのため、グループワークのたびに大変苦労しました。自ら英語で話しかけ、ときには断られることもありました。また、グループ内での議論の際にも毎回自分の意見を言う必要があります。大変ではありましたが、こうした経験を通じて集団の中で自分の役割を見つけ、自分の意見を主張し、チームで共同して仕事をしていく力を向上できたと感じています。

授業以外の面では、私は積極的に様々な活動に参加しました。例えば、English Table への毎週の参加、Cosmopolitan Society のイベントへの参加（旅行）、Language Exchange Program への参加、Buddy との交流、寮での様々なイベントの参加、などです。これらの活動を通じて、多くの友人をつくり、香港人の生の生活、異なる考え・価値観など様々なことを学ぶことができました。英語に関しても、国籍が異なる多くの友人と交流する中で慣れることができ、自信がついたと思います。特に思い出深いのは、毎日のように寮のイベントに参加したこと。毎週寮の委員会メンバーが様々なイベントを開催してくれたため、私は積極的に参加して現地学生との交流を楽しみました。また、Chung Chi College のスポーツ大会に参加したのも思い出です。まさか香港で毎日綱引きの練習をするとは思っていませんでしたが、数年ぶりに1位になった時には最高に嬉しかったです。

留学中には旅行や観光もたくさん行いました。香港は小さな国なので、1年間あればほとんどの有名な観光名所をまわることができます。私が特に好きだった場所は、香港島のセントラルにある LKF です。ここは昔のイギリス風のバーやクラブなどが立ち並び、中国風の街並みとは一線を画した雰囲気があります。わたしはよく友人とここに飲みに行っていました。また、香港だけでなく中国大陸へも週末を利用して旅行していました。例えば、深圳、広州、廈門などです。深圳は香港と陸続きなので、気軽に行くことができます。実際に行ってみるとわかるのですが、香港と中国は街や人の雰囲気が全然違います。私が香港にいたころは、よく香港人に「香港と中国を同じだと思えないでほしい」、「香港人は中国が嫌い」などと言われることがあったのですが、その意味がよくわかりました。実際に現地に足を運んでみて自分の目で確かめることは重要だと思いました。ところで、中国では特にご飯がおいしかった記憶があります。中華料理は日本人の口に合いますし、どの料理もおいしかったと思います。

私は今回の留学を通して本当に多くのことを学びました。専門知識の面では、もともと学びたいと思って

いた会計学やファイナンスを思う存分学ぶことができました。友人との交流や行事への参加を通じて、香港や中国の文化を十分に理解することができ、中華圏文化への関心がより一層高まりました。また、日常生活や授業などをすべて英語でこなすことで、英語で文化背景の異なる人とコミュニケーションをとることに自信がもてるようになりました。今後はこの留学を通して得た経験をもとに、グローバルに活躍できる仕事をしたいと思っています。海外で働きたいという気持ちが高まり、英語を使って海外でも働ける自信がついたのはこの留学の大きな成果だったと感じています。

最後に、これから留学に行く人は、事前に準備を徹底し留学の目的を明確にすることを勧めます。留学生活ではあっという間に時間が過ぎると同時に、数か月経つと環境に慣れてきて中だるみが生じます。そうした際に、当初立てた目標を振り返り、自分がなぜ留学に来たのか、何をしたいのかを確認し直すことで、本来やるべきことが見えてくるはずです。留学生活でどのように成長し、どのような成果を得ることができるかは、留学中の日々の行動にかかっています。ぜひ毎日が無駄にしないように積極的に行動してください。また、週に1度くらいは日々の生活を振り返り反省することで、やるべき課題が見えてくるのではないかと思います。留学生活は一生の思い出になると思うので、是非楽しんでください。